企画・制作　朝日新聞社メディアビジネス局

自我作古

前人未踏に、挑む意思

「我より古を作す（われよりいにしえをなす）」と訓み、前人未踏の新しい分野に挑戦し、
たとえ困難や試練が待ち受けていても、
それに耐えて開拓に当たるという、勇気と使命感を表した言葉で、
慶應義塾の信条となっています。

Keio University

1858

CALAMVS GLADIO FORTIOR

創立者



福澤諭吉、蘭学塾を開く

1858年、藩命により江戸築地鉄砲洲の中津藩中屋敷内（現在の東京都中央区明石町）に蘭学塾（1863年に英学塾に転向）を開く。

ラグビー



日本ラグビーのルーツ校

1899年、英語講師E・B・クラークが慶應の学生たちにラグビーを教える。その後クラークを部長に据え「蹴球部」として体育会に正式加盟、1922年には初めて早慶戦を実施。以降、ラグビー界に数々の人材を輩出し、日本にラグビーの魅力を広める先駆者的役割を果たした。

半学半教

学びつつ教え、教えつつ学ぶ

教える者と学ぶ者との師弟の分を定めず、先に学んだ者が後で学ぼうとする者を教える。教員と学生も半分は教えて、半分は学び続ける存在という、草創期からの精神です。

Over 160 Years of

Tradition

&

Innovation

革新の連続が、伝統をつくる。

AI Artificial Intelligence ホスピタル

AIを現場に取り入れ、人にしかできない
心ある“真の医療”の時間を創り出す。



慶應義塾大学病院長
北川　雄光

今、日本では国を挙げてAIの社会実装が推進され、医療分野への応用が加速しています。様々な疾患の自動診断やバイオセンサーを用いて患者さんを見守るシステムが開発され、膨大な臨床データの蓄積、解析による医療の質向上が推進されています。慶應義塾では、以前から全塾的にAIの医療への応用に取り組んできましたが、2018年慶應義塾大学病院が内閣府によりAIモデル病院の一つに選ばれました。これから、AIを駆使した患者さんの異変感知・予測システムや、自然言語処理による診療録自動記載、医療支援ロボットの活躍などが実現します。しかし、医療行為の全てをAIで置き換えることが目指すべき将来像ではありません。AIを効率的に医療現場に取り入れてヒューマンエラーを無くし、単純作業を自動化することで患者さんと医療者が心と心で接する“真の医療”を実践する時間を生み出すことが、次世代医療の目指すべき姿です。

独立自尊

自立した人を、学問で育む

「心身の独立を全うし、自らのその身を尊重して人たるの品位を辱めざるもの、之を独立自尊の人と云う」。自他の尊厳を守り、何事も自分の判断・責任のもとに行うことを意味する、慶應義塾の基本精神です。

インターネット文明



環境情報学部教授
村井　純

「ethical use」なインターネットの未来をサイバーセキュリティで拓く。

「インターネット文明」は特定の地域ではなく、地球全体の人類が共有して作り出している初めての文明です。この文明がこれから正常に発展するためには倫理が大切になってきます。そして、日本は倫理ある国として、その未来を担う役割を世界から期待されています。サイバーセキュリティの技術を生かし、私たちも力を合わせ「ethical use（いいことのために使う）」なインターネット文明を築いていきましょう。

三田



慶應義塾図書館開館

創立50年記念事業として、1912年に三田構内に開館。ゴシック式れんが造りの壮麗な建築は、1969年に重要文化財に指定されている。

日吉



日吉キャンパス開設

三田の狭隘化に伴い、日吉に新校地を定めることを決定。1934年日吉に第一校舎が竣工、1936年に第二校舎が竣工した。

知的財産の法的保護



法学部教授
君嶋　祐子

科学技術の進化を、
法と倫理で社会に還元する。

AIが社会に活用されていく中で、AIによるデータの収集使用、市民監視や軍事利用への不安など新たな問題が指摘されています。こうした問題を解決するためには、AIにおける倫理を考え、法の形成につなげることが重要です。社会が技術の進化による恩恵を受けられるように、科学技術と、倫理学、法学など人文社会科学との学際的研究教育が、一層求められるでしょう。

慶應義塾大学
Keio University

※北川雄光病院長、村井純教授、君嶋祐子教授が登壇した「朝日教育会議2019（2019年12月14日開催）」の採録記事はこちら